

わくわく 園庭日記

蒲幼稚園 No.4 R4,10,14

本格的な秋がやってきました。トンボが飛び、バッタが跳ねる園庭で、子どもたちはそれぞれの楽しみを見つけて遊んでいます。身近な自然と関わって素朴な遊びを繰り返し楽しむことこそが、今の子どもたちにとって大事な経験になると感じています。生き物を追いかけて、草花を摘み、自分の心が動く感覚を味わう。そして、共感する友だちや保育者が傍にいる。外遊びで見かける子どもたちの穏やかな表情に、そんな環境と関係を築いていたら幸せだなあと思いました。



ささやかだけど豊かな自然



草をかき分けて歩く



『よりみちはらっぱ』には、草がたくさん生えました。今年はススキが生い茂り、豊かに穂を実らせています。園庭で摘んだススキを飾って、お月見を楽しんだクラスも多いようです。子どもの背丈以上になったススキをかき分けて歩くのは、ちょっとドキドキ。探検気分が高まります。ススキの葉は鋭く、通り抜けた後にヒリヒリと痛むこともあります。この痛みを感じることも今の時代では貴重な経験になると思っています。



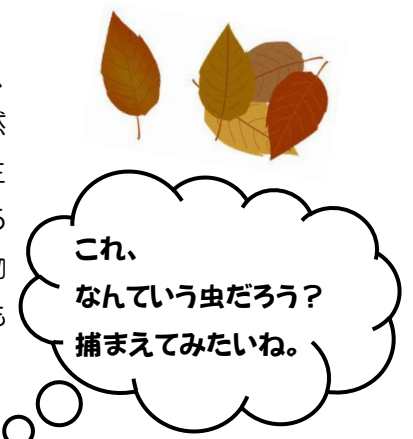
園庭に咲く草花を摘む

花は季節を感じさせてくれるものです。またカラフルな花を添えるだけで、その場の雰囲気はパ〜ッと明るくなります。子どもたちにも花を愛でる心が備わっているのでしょうか。いや、子どもたちの方が強く感じるのかもしれませんが。花が飾られた様子を見て、通りがかった別のクラスの子も立ち止まり、「わ〜きれい!」としばらくその場に佇んでいました。

足元に見つけた小さな世界



地面をじっと見つめていると、ダンゴムシをはじめ、アリの巣や小さな種などが見つけられます。毎日当然のように踏みしめている地面で営まれている小さな生き物たちの世界に想像力を働かせて楽しむ子どもたちの姿が見られました。いつの日か、これら小さな生き物たちの働きが、私たち人間が生きていくうえでとても重要であると気が付く日が来ると信じています。



『よりみちはらっぱ』には、いろいろな草や生き物が生存しています。数年前には何も生えていなかった場所とは思えません。5年前の台風で折れてしまった藤の木（園庭東南の隅）も立派に再生しました。ちょっとやそっとではへこたれない植物の力強さに驚きました。



実りの秋 そして収穫



「これもタネ? これも? これ全部芽が出て花が咲くの?」見つけた一粒のタネから興味はどんどん広がっていきます。「これもタネなの?」次に見つけたのはアレチヌスビトハギという通称「くつつきムシ」。人の服や動物の毛にくっついて自分の生息範囲を広げるといっても賢い植物のタネです。背中にタネをくっつけられた人の負け! という楽しい遊びまで考え出して、種の収穫がさらに楽しくなるのでした。



12月ボランティアで集まった保護者の方と、園庭整備に取り組みます。

